意見交換の概要
（令和３年８月５日（木）・県庁正庁）

１．　Wi-Fi 及びサーバーの強化について

本校は、重信川や皿ヶ嶺など自然に囲まれた中で生徒たちがのびのびと勉強や部活動に励んでいる。

深刻なコロナ感染拡大によって、去年は休校になり授業が受けられなくなった時期があったが、今年度は一人１台端末のおかげで、休校になっても、自宅やオンライン授業を受けることができ、この夏休み中も学校から新しい情報が送られてくるので、安心している。

しかし、コロナ感染対策として使うだけでなく、校内での活動や他校との交流のほか、生徒総会や生徒会役員選挙など、生徒会活動に使っていきたいと思っている。でも、現在、全校生徒が一斉にオンラインに接続することができないので、Wi-Fi の強化、学校のサーバーの強化をお願いしたい。各学校のサーバーが強化されれば、他校の生徒会とリモート会議を行い、オンラインでの交流イベントを実施したいと思っている。また、他県の高校生とも交流ができるのではないかと思っているが、どのようにお考えか。

【知事】

去年はできるだけ授業をさせてあげたいという思いを持ちながらも、コロナの感染リスクという得たいの知れないウイルスであったがゆえに不安感というものが大きかったので、時折休校措置をとったりしながらやった時期が当初でした。その後はだんだん向き合いながら、少しずつその実態が分かってきたんで、その発生した学校単位で対応していくというような状況になってきました。しかも、早期発見をすれば感染の拡大は食い止められるというふうなこともはっきりしていますので、今のところ、各学校単位で大きなクラスターが、大半の生徒さんが感染してしまうようなことは県内では起こっておりません。一部クラスターはありますけれども、なんとか抑え込めるような状況で今日に至っています。

その中で気になっていたのが、やはり授業への影響でありました。当初は、まだ、一人１台のパソコン体制もできていなかったこともあったんで、夏休みを少し切り込んで授業を増やしたり、いろんなしわ寄せがあったと思いますけれども、これは速やかにやろうということで、集中的に全県立学校に一人１台のパソコンを速やかに配付するというようなことを行わせていただきました。ただその一方で、パソコンがあっても、そのソフトと先生方の運用経験を積んでいかないと有効には活用できないので、パソコンのハード整備と同時にソフトの対応、それから先生の習得研修、こういったことにも並行して力を入れながらやってきてるんで、今のところ、オンラインでの授業で勉強の方は何とかカバーできる体制ができたかなぁというふうには思っています。ただ、そうは言っても、在宅では限界がある活動も、今話しがあったようにありますから、そういった中でも幅広い活動が展開できるようなことにしていくためには、ネットの整備は行っているんですけれども、高速 Wi-Fi の整備等は必須になってきてると思うんで、もちろん、財源には限りがありますから、計画的に行っていくということになるけれども、その財源をうまく活用しながら、優先順位は高めていきたいと思っています。

これは、単に今コロナだからということではなくて、それこそ、国内における他の学校との交流、それから場合によっては、各市単位で姉妹都市なんかもありますから、海外との交流、こういったことも視野に入れて、特に今の皆さんの世代は、我々の時代以上に国際化の波にまきこまれていくと思います。日本そのものが資源のない国なんで、いろんなものを輸入して高い技術で付加価値を付けて、様々な国に売って経済を発展させてきた加工貿易国家が特色だったんで、そもそも交流があったんだけれども、インターネットの普及によって、そういった貿易分野だけで

はなくて、国境を越えた交流というものが非常に色濃くなってくる時代に入ってくると思います。と同時に経済の優位性というのが、正直言って失われつつあります。1985 年には一人当たりの日本人のＧＤＰ、国民総生産が瞬間的に世界で１位になった時期がありました。今、何位くらいだと思う。当時 190 カ国くらい、正確には覚えてないけれど、あったと思います。1985 年には瞬間的に１位になったんだけど。

（参加者）

30 位くらい。

【知事】

そのくらいなんだよね。いろんな国が台頭してきて、まだまだ技術的には高い分野を日本はたくさん持っているけれども、国際競争がものすごく厳しい時代に入ってきます。例えば、僕も行って驚いたんだけれども、今日本の一人当たりのＧＤＰは 39,000 ドルくらいだと記憶しています。年ベースで言ったら、400 万円位。上位の国、スイスとかが高いんだけれども、既に８万ドルくらいにいってる。日本の倍くらいの力を付けています。アジアの国がどんどん日本に接近して競争力を高めているんで、そういう意味では、君たちの時代は我々の時代以上に、海外に、地方に居ても海外に目を向けて、そことの交流や競争や共存というものを意識しないと成り立たない時代になっていくのかなと思いますので、この Wi－Fi 環境なんかをうまく活用して、どうしても日本の国は四方が海で囲まれて、単一民族で、そんなに海外の人としょっちゅう陸路で結ばれてないから、交流があるわけではないので、大いに活用して積極的に外に目を向けることに使ってほしいなと。そのために整備を頑張っていきたいと思います。

（参加者）

海外との交流などは考えていませんでしたが、それでも、できると思えてきました。どんどん挑戦したいと思います。ありがとうございました。

≪補足説明≫〔教育委員会〕

国の整備方針に基づき、令和元年度に全県立学校へ一斉整備した Wi-Fi については、令和３年度９月補正予算（県立学校 ICT 活用教育環境整備費）により、学校の状況に応じ、令和３年度中にアクセスポイントを増設するなどの Wi-Fi 環境の拡充・強化を図っています。

なお、全校の児童生徒全員が同時に端末を利用する際は、地域の回線の込み具合によって、安定した運用ができない懸念があるため、そうした場合は、電子黒板等の周辺機器を活用し、運用をしているところです。

また、今後は、各校の利用状況や回線状況等を考慮し、更なるＩＣＴ環境の拡充について検討してまいります。

２．砥部焼のＰＲについて

高校生になって砥部焼の窯元さんとよく連絡を取るようになってからすごく痛感したことがある。それは、砥部焼という素晴らしいものが愛媛にはあるのに砥部町の中で納まっている、というのがコロナ禍で顕著になり、今より一層砥部焼をもっとみんなに知ってほしい、砥部焼を盛り上げたいと強く思っている。

本校では、七折小梅の枝や葉っぱを使った釉薬の研究をし、一昨年の文化祭では、梅の花の形をしたお皿を売ったり、砥部焼の模様の自販機のデザインを提案して設置してもらったり、絵付け体験での国際交流などを行っている。ほかにも、四国照明デザインコンテストに砥部焼を使用した作品を出品し、アイデア賞を受賞している。

もっとたくさんの人に砥部焼を知ってほしいという思いが強いので、砥部焼のＰＲの協力を、

より一層県からしていただけないか。

【知事】

はい。砥部焼ってのは本当に歴史ある伝統工芸品だと思います。

大事なことは、砥部焼の特色は何にあるのかなっていうのをみんなで認識するっていうことが大事かなと。焼き物っていうと、例えば、九谷焼とか伊万里焼とか、いわば使うというよりは、芸術品のような分野で成り立っている焼き物もありますよね。そういうものは一切捨てて、ともかく使うだけっていう焼き物もあります。

砥部焼ってのは、その両方を持っている特色があるって僕は常に思ってるんだけれども、いわば一人一人の窯元が創意工夫をして、丁寧に作り込んでいくという、伝統工芸的な芸術的な価値及びそれをただ飾るんじゃなくて日常の中で使うという、ちょっとした高級な生活をサポートするジャンルが砥部焼ではないかなと。これ、なかなか他にはないんですね。だから、そこの特色をもっと色濃く出したらいいなといつも個人的には思ってます。一時なかなか厳しい時期が続いていたんですが、幸いなことに、最近は若い女性の窯元さんがどんどん増えていて、厳しい中でも、今も 100 ぐらいの窯元さんがあると思うんですけども。若い女性の窯元さんも増えていて、これまでにないジャンルの開拓っていうものに挑戦する気風が生まれ始めました。

もちろん、今までの唐草模様の厚手の砥部焼、伝統的な形も魅力的で、大切にしていかなきゃならないけども、どちらかというと、それ以外ってのはあまりチャレンジする人が少なかったんだけども、今は色彩、それから洋食器的な砥部焼、薄手のですね、様々な形状、いろんなことでチャレンジされていて、僕的に見ると魅力、選択肢が増えて、かつての丈夫な伝統的なものも味わいとして僕らの世代は非常に身近に感じるんだけど。そういう新しい分野にも、非常に魅力が生まれているなぁというふうに思ってました。そこで今いろんなサポートしているのが、一つには窯業技術センターという、砥部焼を支える研究所、これ県の施設になります。随分古かったんで新しくいたしました。これ窯業なんで、県内でいえば、砥部町の砥部焼のサポートと、それから、今治市菊間町の菊間瓦のサポートを中心に、研究面からバックアップする専用施設になっています。これは大いに窯元さんも活かしていただいて、活用する体制を作りました。

それからもう１点は、洋食器の分野。新しいデザインの挑戦ということを踏まえて、令和２年２月に県とえひめ産業振興財団がイギリスから陶芸家を呼んでワークショップを開催し、現在も交流が続いていて、新たな砥部焼、いわば輸出した時に、やっぱり買い手の好みってのも分析しておく必要があるんで、欧米人から見た砥部焼、そしてどういうものをこのジャンルの中で追求していけば、さらに、欧米人の関心を引くかっていうようなヒントをもらうために、ワークショップを実施しました。非常に刺激があったと聞いてますんで、今の若い世代、女性の窯元さん、こういった方々に、一層の刺激が注入されることによって、さらなる魅力、価値っていうのが生まれてくるんではないかと期待をしてます。

問題は、いいものを作っても売れなかったら成り立ちませんから。僕は昔商社というところで勤めていた経験があります。海外転々としながら、いろんなものを海外と貿易しながら仕事をしてたんだけども、そういったことを活用して、営業本部という組織を愛媛県庁内に作りました。ここは県庁の職員で公務員なんだけども、実際、県が利益を上げるわけじゃないんだけども、サポートをする、営業をサポートする部隊なんで、ここは全国や世界にどんどん職員が飛んでってビジネス商談会を仕掛けたり、新たなビジネスのチャンネルを開拓したり、そこにこういうものがあるから行きませんかっていうのを砥部焼だけじゃないんだけど、いろんなところに投げかけながらですね、営業のチャンスを作るってことを生業としてます。こういったことを通じて、販売というもの、作る側のサポートは窯業技術センターで、販売のサポートは営業本部で、両側面からサポートして、砥部焼をさらに売れるように、知ってもらえるように、全力を尽くしていき

たいというふうに思ってます。以上です。

それともう一つは、七折小梅ってのは、これまた、ちょっとここ数年は生産量がなかなか芳しくなくてですね。一時はものすごい生産も順調で、しかも、非常に品質の高い梅なんで、作った人が、今年はいくらで売ってあげるっていう、言い値で売れるような商品だったんです。ものすごい価値があるんです。ただここ数年、何故か原因がよく分かんなかったんですけど、ものすごく生産が落ちてきたんで。ただ今年、去年かな、すごく回復基調にあるんで期待をしてます。これで作った、七折小梅ゼリーなんかも絶品でね、あれ大好きで、ぜひ宣伝してください。

（参加者）

砥部焼の取組みやサポートがされていて大変嬉しく思いました。七折小梅ゼリー、食べてみようと思います。

３．サイクリングについて

私の方からはサイクリングに関連する提案をさせていただきたい。

昨年度、私は観光甲子園という、ネクストツーリズムさんの主催するグランプリの方に参加させていただいた。その際に、ＳＤＧｓの 17 の目標のうちの一つ、「住み続けられるまちづくり」と松山市沖の興居島、忽那諸島に注目をして研究を進める中で、島民の方々とお話をする機会があり、島の方々は、「島と本土の往来が増えると、人口の流出が抑えられる」と話している方がたくさんいた。そこで、人の移動について調べてみることにした。

まず、橋について考えてみた。しまなみ海道の方は島と島を橋でつなぎ、人の往来を支えている。しかし、忽那諸島の方はフェリーしかない。そこで、フェリーを活用する方法を考えた。続いて、どのように往来を増やすかについて考えた。私は、昨年度、今年度と本校のサイクリング推進事業に参加させてもらい、中島を巡ったり、ロゲイニング大会に参加させていただくなど、サイクリングの楽しさを知ることができた。それらの経験から、若者が気軽に楽しめるサイクリングというものを一つのツールとして地域の活性化につなげていくべきと考えた。そこで２点提案がある。

１点目は、現在、松山市沖にある興居島、中島の方にサイクリングコースが二つあるが、それらを一つのコースにすること。もう一つは、船の運賃が、中島に行くのに往復で 2,340 円、興居島の方へは 780 円かかる。トータル 3,120 円。我々学生にとってはかなり高い金額になっているので、若い人達を増やすために、この運賃を削減するという形で、ワンデイパスの方を設けたらどうか。

それからリピーターを増やすために、ワンデイパスの特権をもう一つ増やすことで活性化につなげられるのではないか。如何か。

【知事】

まずサイクリングってのは、実は僕がこの仕事についたのは 11 年前なんだけども、その時は、やりたいことがあった。それはしまなみ海道を世界に発信するという構想でした。当時、実はしまなみのサイクリング、一部の人がちょこちょこやってるぐらいで世界に発信するという体制まではいってなかったんで、10 年がかりで仕掛けをしてきました。３段階の計画を立てたんだけども、これ、しまなみを拠点にして、愛媛全体に広げていくという作戦だった。

短期の作戦としては、しまなみ海道の世界発信。中期の作戦としては、愛媛県をサイクリングパラダイスに。長期の作戦としては、四国をサイクリングアイランドに、っていう、短期中期長期の作戦を立てました。当初はしまなみからなぜ入っていったかっていうと、スケールがやはり大きいので一発目にＰＲする効果がある。そこに来た人に、実は愛媛県には他にも面白いサイク

リングコースがありますよっていうことで、リピーターにつなげていくっていうことを描いていたんです。

しまなみの最初の作戦は上手くいきました。世界一の自転車メーカー、台湾の会社とタイアップして、その力も借りながら、国際サイクリング大会開催ということに結びついて、今では日本で最も人気のあるサイクリングコース、それから世界、アメリカの放送局が選んだ 7 大サイクリングコースの一つに選ばれるに至っています。

いろんな仕掛けをしてます。例えば、来られた方が迷わないで、観光スポットを外さないように、これは興居島、中島もやってますけど、ブルーのラインを敷いてるサイクリングロード。これサイクリストにとっても道しるべになるし、運転するドライバーにとってもブルーのラインを見たらサイクリスト多いから、安全運転に気をつけてくださいよっていうメッセージにもなるっていうことでやった背景があります。

それからもう一つはインターネットを活用したガイド。これも非常に今、愛媛県内に 30 ぐらいのコース設定してますんで、それが一発でわかるようなサイトの運営もしています。それから、しまなみはそれに伴って、地元の人たちが、人が来るっていうことはビジネスのチャンスが生まれるっていうことで、例えば、民宿を始めたり、ジェラート専用のお店を開設したりと、お店がどんどん増え始めた。またその風景が全国に流れることによって、移住してみたいっていう人が増えてきてて、人口が少ないけれど、実は松山と同じぐらい移住者が多いんですね。しまなみの島。そういう空間になってきました。いよいよこれが第一段階でできた場合に、次のステップっていうのは愛媛全体をサイクリングパラダイスにっていうことだったんで、さっき申し上げたように、専門家、サイクリングの専門の人の知恵を借りて、チャレンジコースと一般の人たちのファミリーコース、全県下全市町がからむようなコースを作ってもらう。実際走ってみてもらって。そこに全部ブルーラインを敷いてます。そこに行くとどんな風景が待ってるかっていうのを、動画で全部撮影して、「愛媛マルゴト自転車道」っていうサイトで見れるようになってます。実は中島も興居島もそれに入っています。

僕も実際全部ほとんど走ってるんですが、興居島は本当に一周するとね、結構大変なんだよね。でもあそこの恋人岬のような、そこから見る風景がすごい綺麗だし、中島は中島でコース設定間違えるとえらいことになるんだけど、本当にいろんなコースが素晴らしいものになっていて、おすすめのサイクリングコースの一つではないかなと思います。

例えばそのほかにも、愛媛県だったら、四国中央市から新居浜市の翠波高原の走るコース、それから、ちょっときついけど、石鎚山のヒルクライムのコース。それから、佐田岬半島のメロディーラインのコース、それから双海町の海岸線沿いのコース。それから、南の方へ行ったら、明浜町の海沿いのコース。愛南町の高茂岬っていうコースとか、もう本当にたまらないコースがてんこ盛りなんだね。だから、それらを 1 カ所じゃなくて、ここも、愛媛に来たらここもいいし、ここもいいっていうふうに、相関的に結びつけることができたら、より一層魅力度が増していくし、リピーターも増えていくんじゃないかなというふうに思ってます。今提案のあった、船ってのは非常にいい視点で、実は、かつて松山市の仕事をしていた時に、北高にまつわることは思いっきりやったんだ。それは坂の上の雲のまちづくり。

秋山好古、元貴校の校長先生を務めた方が主役の小説を世に出したいってまちづくりを行って、ドラマ化までもっていって到達することができたときに、松山北高校で講演したことがある。その当時の在校生に、1 年生から 3 年生全員に言ったのは、「坂の上の雲を語れる高校というのは日本でただ 1 校しかないんだよ。それはみんなが通ってる松山北高校、だから歴史を知りなさい、歴史を学んだ方がいいよ」と。「それは一つの誇りだよ。そこには正岡子規も出てくるし、夏目漱石も出てくるし、秋山兄弟も出てくる。それ全部旧制松山北中学校の時代に、歴史が作られてるから、それが語れる」、ちょっと話が脱線したけど、そんなことにチャレンジしました。

その松山市の時に、実は中島が合併したんです。その時に中島の皆さんは、もう松山市に合併

されたらもう中島も、町もなくなる、人も減る、済んでしまうわっていうような空気だったんだけども。いやそうじゃない、松山市と一緒になったことによってプラスにしましょうっていうことで、中島や興居島をフィールドにした、「しま博覧会」っていうのをやったり、いろんなことをやった記憶があります。

その中島の皆さんから見れば、普段ある風景に何の価値があるんだろう、って分かんない訳なんですね。例えば新鮮な魚、綺麗な海、それから何と言っても船という、この船というものの価値っていうのが、普通に使ってるものだから分らなかったみたい。でも、普段、船に乗る人ってのはごくごくわずかで、船に乗るということに新鮮味を感じる人ってのは、世の中にはもう山のようにいるわけです。そこで目をつけたのが修学旅行の誘致だったんです。広島に来ている修学旅行を、当時松山に年間 6 校しか修学旅行に来てなかったのが、今 100 校ぐらいになってる。実は中島がポイントだったんです。広島に来ている船を、フェリーで高校生に中島に寄ってもらう。中島に降りて、中島の幼稚園児が旗振って出迎えして、海コースの人たちは地引き網、山コースの人はミカン狩りに行って自然体験をする。そして、船に乗って道後温泉に行くっていう、こういうコースなんだ。

中島に到着する時は幼稚園児が旗振って、「お兄ちゃんお姉ちゃんいらっしゃい」って、帰るときはテープで、「お兄ちゃんお姉ちゃんまた来てね」って、もう東京から来た子、名古屋から来た高校生たちはもうそれで、ボロボロに甲板で泣きじゃくる。彼らは船なんか乗ったことがない。だから船というものがどれだけ新鮮かっていうのは、その状況を見て本当に痛感をしました。幼稚園児の旗振りとテープが効いたと思うんだけど、「24 の瞳大作戦」と名付けてやった修学旅行の誘致でした。

それぐらい魅力的な場所で、サイクリングもしやすい。ましてやトライアスロンもやってるから。中島は一周コース、コース間違えなければ、そんなに高低差もないんで、素人でも、初心者でも走りやすいコース。とても魅力的。それを船を確かに交えたら面白いなと思います。ただそのときにネックになるのが、やっぱり今言ったような運賃だと思うので、ただこれ民間の会社がやってるから、そう簡単に運賃ってのは、いじれないですね。だから、例えば、コースを作るとか。旅行商品で、道後温泉に泊まる、あるいは松山のホテルに泊まって、自転車を、伊予鉄道は今自転車を載せられるんで、それに載せてフェリーに乗り、昼食を中島の中でというコースを作ってもらって、弁当でもいいから、取ったコースにして、その中に運賃をセット料金に入れるとか。そういうパック商品を出すとかいう発想の中で、運賃の交渉をすれば、船会社からすれば、旅行商品が売れれば、自動的に船に乗ってくれるという確約が取れるわけですから、そこには確約取れるんだったら、多少の料金をサービスするってことが可能になる。民間の発想で言えば可能になる可能性があるんで、そういう工夫で考えていくっていうのが一つの切り口になるかなと今の話聞いてて思いました。ぜひ研究してみたいと思います。

（参加者）

本校のサイクリング推進事業の方に参加させていただいているんですが、昨年度はメンバーが 20 名ほどだったんですが、今年度はＰＲすることで 55 名になって、やはり若い人はサイクリングに結構興味があって、非常にこれから発展が見込まれるんじゃないかなと思われます。

【知事】

その後ろも全部行ったの、写真。亀老山も行ったの。途中、結構坂きつかった。

（参加者）

結構きつかったです。

【知事】

僕も全部足つかずに上った。だから本当に灯台下暗しで、さっき言った、紹介は一部だけど、愛媛県には、まだ君たちが行ってないような本当に魅力的なところが、たくさんあるから、ぜひして欲しいなと思います。中島も興居島もとてもいいコースだと思います。

≪補足説明≫〔観光スポーツ文化部〕

愛媛県では、公共交通機関を利用して自転車を運ぶことのできるサイクルトレインやバスなど、サイクリストのための二次交通の充実に向けた様々な取組みを実施しており、今後とも、船の活用を含め、サイクリストの利便性が高まる取組みについて地元市町と協議しながら検討してまいります。

４．高校生活動のＰＲについて

県内の農業高校の主幹校として地域に根付いた特色ある活動に取り組んでいる。

私が所属する生活科学科では地元企業と連携して、レストランのレシピ開発などをしている。他の５学科も、海岸の環境保全活動やみかんうどんの開発、サービスエリアなどの提供などをしている。これらの活動を、現在は学校のホームページで発信したり、民間のメディア機関などを活用しているが、今後さらに学校のことを発信していきたいと思っている。

例えば、県政広報番組のような形として、高校生の活動発信チャンネルのようなものを作成し、より多くの人に日常的な情報発信ができるような取組みができないか検討していただきたい。

【知事】

愛媛県にとって、いろんな産業があるんだけども、基本、基幹産業、大事な産業の一つが農業です。愛媛県の農業っていうと、ぱっと浮かぶのは、柑橘だと思いますけれども、決してそれだけではなくて、いろんなもので日本一の生産量を誇るものがあります。例えば、柑橘の生産量、残念ながら西日本豪雨災害の関係でちょっと生産量が落ちて、去年は２位になりましたけど、それまではずっと全国１位。あと生産量１位なのはキウイフルーツ、この生産量は長年にわたって愛媛県が第１位。それから、裸麦。体にいい裸麦の生産量も何十年にわたって全国生産量１位。その１位の生産量を持つものを中心としながらも、ものすごく多様な食材を作っています。農家の皆さん、本当に東予中予南予、それぞれの気候や土壌を生かしてですね、豊富な食材を揃えています。これは個人的な感想なんだけれども、愛媛県って、郷土料理、共通する郷土料理ってあまり思い浮かばないんだよね。例えば、香川県のうどんとか、高知県のたたきであるとか。そういう、なんか郷土料理っていうものがなぜないかって、自分なりに考えてみたんです。それは結論から言うと、食材が豊富すぎるんです。海の幸が豊富にとれる、山の幸が豊富に採れる、里の幸が豊富に採れる、何も工夫して作るまでもなく、ものすごい恵まれた食材があるっていうこと、これがその原因ではないかなという結論にたどり着きました。食材が少ないところは、限られた食材で、より少しでも幸せな生活を目指すために工夫をする。そこで郷土料理が生まれたんじゃないかな、というふうに思ったんです。確かにいろんなことやっていくと、例えば、東京や大阪のホテルで「愛媛フェアをやらしてください」と、レストランにお願いしたりするときに、よく言われるのが、「愛媛県って何でもあるんですね」っていう答えがよく返ってきます。「他の県でフェアやると、全部が揃えられない」と。例えば、お米はちょっと申し訳ないけれども、フェアやるけれども、この食材についてはお宅の県ではないから他の県のを使いますよと、こういう形になると。愛媛県はどこ行っても、全部揃えられるんです。だから、豊富な食材があるっていうことが愛媛農業の強みであるってことは、ぜひ農業高校としてアピールをしていただきたいなと。それを紹介をしていただきたいなと。みんな知らないものいっぱいあると思うんで。ぜひお願いしたいなぁというふうに思います。

ざっと言うとですね、例えば、南の方からいくと、愛南町行ったらこれは魚だけど、びやびや

がつおっていうね、そこでしか食べれない。高知のたたきなんていうレベルじゃない、新鮮なかつおが揚がります。宇和島行ったら、これはもう日本の養殖の鯛の60%を愛南、宇和海で生産してるんで、鯛めし。中予の鯛めしとは若干違うよね。中予は炊き込み型だけど、お刺身乗っけてっていう、店によって味が違う、伝統の味の鯛めしがある。鬼北町へ行ったら、雉の生産地。雉肉を売りにしている。松野町行ったら、ここはやっぱり梅と桃を生産している。それから、八幡浜へ行ったら、これはもう一本釣りのいろんな魚が豊富に市場に揚がると。伊方町へ行ったら、白魚。シラス丼。白魚の新鮮なやつが売りになってる。大洲へ行ったら里芋。それから内子へ行ったら、柑橘は作ってないんだけど、いろんな落葉果樹、桃とかブドウとかいろんなものを作っている。それから久万高原町へ行ったら、久万高原清流米っていうおいしいお米、これは、コシヒカリがベースになっているんだけども、作っている。西予市に行ったら、肉の産地で、あかね和牛っていう、もうとびっきりの肉質の牛を飼育してる農家があったり。南予ってのは特に豊富な食材が揃ってますよね。

中予も松前の裸麦もそうやし、伊予市なんかは、今はハウスみかん、紅まどんなとか、もう本当に幅広く作ってますよね。それから、東温市はやっぱり、裸麦。かぼちゃ、お米なんかもある。それと面白いのが、イタリアの食材で、パクチーを作っている農家とか、面白いチャレンジをしている農家もあったり。

それから東予、東予はどっちかって言うと工業地帯なんだけど、西条市なんかは、柿や海苔やいろんなちょっと中予や南予とは違うようなものを上手く作っている地域もあります。そういうものがこれだけある。観光地と一緒なんだけど、みんな灯台下暗しで知らない人があまりにも多い。

これを宣伝するのは、農業高校の生徒さんの使命であるということをぜひ期待したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

（参加者）

ありがとうございました。愛媛県の農業の特徴や強みについて理解を深めることができました。農業高校生としての自覚を持って、これからも積極的にいろいろなことにチャレンジしていきたいと思います。ありがとうございました。

≪補足説明≫〔企画振興部〕

毎月発行の県広報紙「愛顔のえひめ」では、様々な分野で活躍している高校生を紙面（WEBあり）で御紹介しています。また、ユーチューブ愛媛県公式チャンネルでは全国募集を行っている学校を紹介する動画を公開しています。

そのほか、高校生の活動を紹介する動画について、広く県民等に向けて広報したいものがあれば、県教育委員会高校教育課を通じてご相談いただきたい。

５．空き店舗の活用について

本校は創立120周年という節目を迎え、誇り高き伝統ある高校だ。

私は、地域ビジネス科の一員として、地域のイベントに参加させていただいたり、保育園で防災教室を開催したり、今年はラジオコンテンツを制作して松山の魅力を発信したりしている。また、例年、1000 日実習を実施し、地域から直接学ぶなどしている。その中で、松山市内の空き店舗を私たち高校生に貸していただけたら、今よりもっといろいろなことができるのにな、と感じるようになった。例えば、今の地域に必要なことや、地域から求められていることを私たちが調査し、その結果を基に地域に貢献できる企画を立て、実施し、地域に元気を与えられる場所にしたいと思っている。具体的に言えば、地域のお子さんの成長をみんなでお祝いする昔ながらの

行事を行ったり、高校生の作品を展示するギャラリーにしたり、また、簿記を教えてもらうスタディスペースにしたりしたいと考えている。

【知事】

まず、空き店舗の活用というのは、それぞれの市町が中心になって考えると思うんですけれども、例えば、さっき言ったように、松山市の仕事をしていた時に、空き店舗の活用というのは結構テーマにしていました。あるところでは、大々的にやったのは、「ふれあいサロン」に活用する、という方針だったんですね。あの当時は、お年寄りが病院に行く、なんで病院に集まってしまうのだろうか。行く場所がない、楽しむものがない。だから病院に行く人も多かったんで、じゃ、行き場所をつくろう、ということで、地域にある商店街が、丁度空き店舗が多くなってきたんで、それを借りて、地元の社会福祉協議会に貸し出して、その社会福祉協議会が、例えば、そこで集う工夫は皆さんに考えてもらうと。例えば、囲碁のコーナーを作ったり、編み物のコーナーを作ったり、何か地域の伝統行事を語るコーナーを作ったり、いろいろなことをやって。そこで唯一、収入源としてコーヒーメーカーが置いてあって、とっても美味しいコーヒーなんだけど、ちょっと高めにしてるんだけど、それをみんなでお金を出して買うことによって運営費を捻出するとか、ですね。ただ、同じ世代の元気な人たちが集まってくるから、ものすごく賑わいができて。そのやり方が、一カ所で始めたのが、あれやり方いいねって言うんで広がった経緯があるんです。松山市から 10 年離れてしまったんで分からないんだけど。市の取組みによって、空き店舗の活用はいろんなところでやれるんかなぁというふうに思います。

今県の方でできるのは、県の施設をいかに有効に使うかっていうことで、実は高校生のために用意したところもあるんです。それは、えひめこどもの城です。あれ、広大な空間があるんです。いろんな仕掛けをしてるんだけど、あの場所には、こどもの城と動物園と、それから運動施設が集中的に集まっています。当初は、それぞれで魅力度アップを考えようってことでやってたんです。その中で、動物園は動物園、総合公園は総合公園でいろんなことをトライしようと。こどもの城で何しようかなってことで考えていたときに、折角のこの広大な空間をフルに使うには芸術祭をやったらどうか、というのが自分なりのアイデアだったんですね。そこで生まれたのが、「子ども芸術祭」なんです。今、ここでは、２年に１回、作品を募集してます。ほとんどの高校からチャレンジしてくれてます。全国からも、毎回チャレンジが増えてきてて、何を売りにしてるかっていうと、さっき言ったように広大な空間なんで、入賞作は半永久的に展示される、ということなんです。今こどもの城に行くと、年度は違えども、その都度都度の大会で作られた高校生の力作があちこちに展示されています。それを見るだけでも、すごい面白い空間になっていますので、ぜひ育てていきたいなぁと思っています。

ですので、場所の活用っていうのは、空き店舗もそのうちの一つの選択肢だと思うけれども、管轄しているのが、県か市かによってやれるやれないはあるんだけれども、工夫によって何に使うかっていうアイデアってものが、ピーンとくるものがあったら、普通はその地域の市や町が動いてくれるもんじゃないかなと僕は思っているんで、ぜひ提案を、これは松山市だと思いますのでしてみたらどうかな、と思います。

６．職業選択の機会の提供について

放送部に所属していて、高校野球に携わってきた。今年度は放送部の部長として、夏の高校野球選手権愛媛県大会の開会式の総合司会や、各試合の場内アナウンスを担当させていただいた。この夏坊ちゃんスタジアムで行われるプロ野球の試合も観戦する予定。その中でプロの方の場内アナウンスも楽しみにしている。将来の職業選択とは直接関わることはないが、プロの方がア

ナウンスをしている姿を間近で見る機会があればいいなと思う。私のように高校生のうちから様々な職業に興味を持っている人が多くいると思うので、その人たちの職業選択に役立つようなチャンスがあればいいなと考えている。知事はどのようなお考えか。

【知事】

もう１点、プロの職業、これは、愛媛県には、先ほど農業のことを取り上げましたけれども、産業や会社も面白い会社がたくさんあるんです。これまた知られていないんです。産業で言うと、四国中央市という、一番端っこにあるよね、ここは日本有数の紙の生産拠点なんです。世界にも羽ばたいている有名な会社がぞくぞくと誕生してます。例えば、ユニ・チャーム、大王製紙、丸住製紙、カミ商事、いろんなパッケージ、お弁当のパッケージとかの全国シェアを持っている福助工業など、そういう会社が集結していて、すごい工業生産量になっています。人口 10 万人で、松山市が 50 万人だけど、工業生産量は 10 万人の四国中央市の方が多いんです。その隣の新居浜市が、日本の財閥の一つ、住友が誕生した街なんです。徳川幕府時代に「住友家」という家が許可をもらって銅を採掘した歴史を刻んできたんです。明治に入って近代化された時に、日本で初めて株式会社が立ち上がります。その時に生まれたのが、今世界的な企業となった住友金属鉱山、住友化学、住友林業、住友重機械工業、これ全部愛媛県で生まれた会社なんです。まだマザー工場が残ってるから、その周辺に企業群が集結してます。その隣の西条市に行くと、水の豊富なところなので、エレクトロニクスとか食品の有数の工場群がここにはあって、例えば、ある会社は、皆さん使っているパソコンやスマホで必ず使う液晶偏光フィルム、というフィルムがあるんだけど、その世界シェア６割持ってる会社のマザー工場が西条市にあります。そういう企業群の技術を支える中小企業がそこにいっぱい集まっています。その隣の今治市へ行くと、日本一の規模になっている造船会社、それから、海運っていう、船でものを運ぶ会社が集結しているのが今治市。例えば、今日本全体の海運会社、何とか海運、貨物船とか世界中の船を回している会社ですよね。そのうち日本の海運会社の 50％が東京都にあります。40％が今治市にあります。その他 10％は愛媛と東京以外。それだけの企業が集結しています。

こういう会社の存在とか、愛媛県の人はほとんど知らないんで、僕は今、実は中学生のころからその存在を知ってもらう、ということに力を入れようということをやっています。何をやったかというと、職業体験、職場体験、これをたった１日行たって何の効果もないんで、1 週間体験してもらって、我が街にはこんな会社があるのか、こんな世界と戦っている、日本全体をシェアに入れているこんな会社があるのか。末端の製品を作ってないから知られてないけれども、すごい世界的なシェアをもっている会社がいくらでもありますんで、それを実際に職場体験を通じて知ってもらおうという事業を大々的にやっています。名付けて、「ジョブチャレンジU-15」という事業にしました。例えば、先ほど農業でシェア日本一を紹介しましたけれど、まだまだいっぱいあるんですよ、ものづくりでは。例えば、パーティクラッカー、みんな使うでしょ。愛媛県に２社あるんだけど、この２社で全国、日本のシェアの６割以上持ってます。それから、ティーバッグ、これも使ったことあるでしょ。お茶とか紅茶を入れる。あれを作っている会社が２社あって、これも日本全国の７割のシェアを持っています。この２社で。それから、南予にホテルなんかで使う歯ブラシとかアメニティグッズ、櫛とか、こういうのを作っている会社が２社あるんだけど、この２社で日本全体のシェアが６割くらい持ってます。そういう会社がいっぱいあるんで、就職の選択肢としても、ぜひ外に目を向けずに、まずは地元を知ってもらいたい、ということが自分の気持ちの中であるんで、学校の先生にもそれを知ってもらおうという呼びかけをしています。できれば、そういう機会、こういう実力のある会社に触れる機会を増やしてあげたいなぁということには今後も力を入れていきたいと思っています。

（参加者）

いろいろなアイデアを考えて今後提案していきたいなと感じました。貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。

７．愛媛県の交通機関の将来像について

私は乗り物の方も興味があり、四国に新幹線がくるのか、ということも、毎年多分この場で議論されているような感じがするが、今後の愛媛県の交通インフラについて、どのようになるとお考えか。

【知事】

実際は、新幹線というのは追いかけ続けています。既に、北海道にまで伸びて、九州にも伸びて、空白地帯は実は２カ所あるんです。一つは四国、もう一つは山陰。この２路線は、北海道と九州の次こそはという思いはずっと持ち続けています。ただ、それには税金を投入しますから、採算が合うのかどうかというのも含めて考えていかなきゃならない。そういった分析と説得が必要なんで。ただ、それはだんだん見えては来てます。ただ、新幹線は時間がかかる。実際、立ち上がって事業のゴーサインが出てから、恐らく、20 年くらいかかると思うから。多分、僕が頑張って追求はするけど、僕自身は生きている間には見えると思っていないんで。でも、次の世代にぜひバトンは渡すぐらいの思いで追い続けています。じゃ、その間はどうするかというと、愛媛の地理的な特性を考えると、やはり空港に力を入れる、というのはこれまでもそうだったけれども、今後ともこれは重点的に考えておかなければならない。それから、もう一つは海に囲まれている県ということで、船を何とか残していきたい、ということを考えています。特に、松山空港っていうのは、今はコロナでドーンと落ちていますけれども、それまでは、だいたい年間に 300 万人くらい利用する空港だったんです。この人数というのは、四国、中国地方、中国っていったら、広島とか岡山も含めて、四国、中国で一番利用者が多い空港なんです。それは、新幹線がないからそういうことも起こり得るんだけど、利用者がものすごく多いんです。全国的に見ても、地方空港の中では多いんです。その間、いろいろな路線開発を追い求めてきました。特に海外路線については、僕が就任した時に、上海便とソウル便が就航しており、ソウル便は一旦ダメになったのを復活しました。それから、サイクリングの関係で、世界一の自転車メーカーが台湾にあったんで、そことの交流を深める中で力を借りながら開設できたのが台北便だったんです。３路線、順調に開設ができたんだけれども、残念ながら、今コロナで日本全国の地方路線、海外路線、全部これ（バツ）になっていますんで、再開を目指していきたいなと思っています。ただそれには、松山空港は設備的に限界がきてます。今飛行機が止まるスポットが６つしかないんですね。これ以上開設しようとすると、もう、ぎちぎちのスケジュールになってるんで、新しいものは、朝の５時半じゃないとダメです、とこういうことになっちゃう。ものすごいダイヤ編成に無理が生じるんで、今スポットを増設する準備をやっています。それから、建物そのものも手狭になってきてるんで、国際線ターミナルを別に作って、こちら側に新しい建物で国際線専用ターミナル、今までのところを国内専用ターミナルにというふうに整備して、コロナを乗り越えた後に備える準備をしています。もう、やる方向は決まってますんで、順次そういった拠点の整備に入っていきます。

それから、心配なのはＪＲで、新幹線がないがゆえに、事業として非常にＪＲ四国ってのは厳しいんですね。ＪＲ九州がなぜ持ち直したかというと、新幹線ができたんで、事業収入が、骨太の事業収入が得られるようになったんです。その収益でいろんな展開ができるんで、ＪＲ四国が生き残るためには、２つしかないと思っています。一つは新幹線を持ってきて、収入の出る事業を抱えるか、もう一つはＪＲ西日本と合併するか。それで、何とか存続を図っていくということ

を模索していかないと、事業としては非常に厳しい状況になっていくと思うんで、そこは頑張りたいなというふうに思っています。

船も同様なんだけれども、幸いなことに、今意外なのは、九州と八幡浜、大分、八幡浜等々を結ぶ南予のルート、この船は実は右肩上がりで利用者が増えているんです。普通、船って、今ちょっと厳しい、という状況がほとんどなんだけれど、ここだけは増えています。理由はいくつかあって、大きく分けたら２つなんだけど。九州の東側に高速道路ができたんですね。今まで高速道路ができてなかったんで、鹿児島や宮崎の人たちは八幡浜のルートのフェリーを使う人がいなかったんです。ところが、この東側に高速道路ができたんで、大分にまで来て福岡に抜けて陸路で大阪に行くよりは、大分に来て船に乗って八幡浜にわたって、四国を走って大阪に行く方が近いというのが分かったんです。かつ、運送会社からすれば、これは僕も知らなかったんだけれども、例えば、宮崎のトラックが大阪にものを運ぶときは、長い距離を走るんで、法律で２人運転手さんを乗せないと認められてないんです。ところが、四国ルートを通ると、途中で今言ったように、船に乗って休めるから１人で済むんです。そうすると、人件費が半分になるわけです。それが分かってきたんで、どんどん利用者が増えてきてます。こういった世の中の変化というのをしっかり見つめながら、船を生かしていくっていう方法を、ほかにもチャンスは絶対あると思うので、今後とも模索していきたいなぁというふうに思っています。だいたい陸、海、鉄道、新幹線はちょっと時間はかかるんで、それまでの計画としてはそんなことを考えています。

（参加者）

楽しみにしています。ありがとうございました。

【知事】

まあ、次の世代にやってよ。